



上加賀田支部

「まなだけ会」だより

平成28年1月31日発行

第5号

【新年の「あいさつ」】

まなだけ会会長 黒沢政男

皆様方は、希望に満ちた新年をお迎えしたと思います。地域の皆様には、まなだけ会の運営に献身的な御協力を賜りありがとうございます。

平成二十七年の運営には、春の総会で新役員が決まり行事については、着実に進行しております。まなだけ会の原点は、地域における人と人との繋がり、共に支え合い、助け合うことよって、「誰もが楽しく・明るく・安心して暮らせる地域づくり」が原点です。

現状においては、少子高齢化の急速な進展や核家族化は、我が地域においても他人事ではなくてきてきている今、どう乗り越えるか「まなだけ会（笠間市社協上加賀田支部）」としても、「この問題を避けて通れない事ですので、皆さんと英知を結集し、福祉活動への参加推進・福祉を推進するリーダーや担い手の養成、この辺が現状においては問題ではないかと思われま。各組織団体との連携を図り、自分たちの住んでいる地域を住み続けたい「まち」にしようとする機運を高めて行かなければならない事も一つかも知れません。

まなだけ会の基本目標として、私たちは地域の一員として、地域の人達と協力し支え合いつつ生活しています。お互いを理解し、よりよい関係を保ちながら「この地域に住んでよかった」という安心感に包まれて生活できる地域、また私たちが抱える生活課題を私たちが解決出来るような地域を目指し、笠間市社協が推進する基本目標「誰もが安心して暮らせる地域社会」の実現に向け、これまでの取り組みの成果と課題、地域社会を取り巻く現況評価等を集約し、目標に向かってみなさんと一緒に取り組んでいきたいと思えます。

3月発行の6号については、同じような問題を抱えて、総務大臣賞を受けた、筑見区自治会の福祉活動「絆」の講演会・支部地区社協活動研究集会がありますのでご報告いたします。

《まなだけ会 花いっぱい活動部会活動》

花いっぱい部会 若菜義友

今シーズンは、部員から提供していただいた瓦を花壇の周囲に埋め込み、縁取りに利用することからスタートしました。

花色や草丈による花の選定や、開花後の花色を想像しながらの植栽、また花の成長を伺いながらの除草剤等、早朝から始める作業も時間の経過を忘れるほどでした。

植栽後は適度な降雨にも恵まれ、円形に植栽したサルビアは期待した草丈に成長し、放射状に植えたマリーゴールドやペコニアも色彩豊に咲いてくれました。

従前は、植栽した苗の開花時期を合わせることに専念しましたが、種から育てた一年草や多年草を混植することにより、季節ごとに開花する花色の変化を愛でることも、今後のガーデニングの楽しみ方かと思えます。

今季も、応募した「第6回笠間花壇コンクール」には入賞出来ませんでした。新たな発想と工夫により、年々変化していく花壇を楽しんで頂きたいと思えます。

花壇の整備に始まり、サルビアやマリーゴールド・ペコニアの植栽と定期的な除草作業、そして初冬を迎え、寒さに強いベオラへとパトントッチし、今年の活動を終了致しました。



（コンクール審査所見）

ペコニアやマリーゴールド、サルビアが花壇の中心から放射状に植栽されるなど工夫がみられ、道行く人の目を楽しませている様子が伺えました。

花の状態もよく、水遣りや草取りなどの管理が、丁寧に行われているように見受けられました。また、花壇の枠にも瓦を利用するなどの工夫がみられました。

《まなだけ会 上加賀田子供会 3世代交流》

上加賀田子供会会長 福島 哲

まず、少子高齢化の進展により地域活動での行事への参加者が少ない中このような交流会を設けてくれて有難う御座います。
・ 田植えでは、田んぼに入る・泥んこになるといった体験が出来た。

・ 稲刈りでは、鎌を使うといった事これは、出来ないという子供達が多いなやらないと出来ない事です、なかには手を鎌で切った子も居ましたが稲がどうなりお米になるのかの勉強になりました。

・ 餅つきでは、お米が何故お餅になるのか、現代の作り方(機械)でしか見た事のない子供たちの中、臼・杵で作るお餅には驚いた子供も居ました。こんな方法で出来るんだと昔ながらの方法を体験できました。

一年間を通して子供達の笑顔も見る事が出来帰った後の「もう一度やりたい」、「家でやろう」と言った声が聞けて本当に良い交流でした。

最後に、この交流を行って下さった、まなだけ会の皆様、今後とも子供達に育成の場を提供お願いします。

